

新元号「令和」が始まりました。今月号から装い新たに、新紙面でお届けしたいと思います。
さてさて、ゴールデンウィークも後半、みなさんそろそろやること無くなってきたのではないですか？

TOPICS
今月号の話題です

今月の練習予定

音の祭典について

音の祭典の楽曲について

GENERAL PAUSE

今月の練習予定

5月の練習予定です。

月	練習日	合奏の時間	曲目
5月	2日		国民の休日
	9日	19:30~21:00	音の祭典の練習
	16日	19:30~21:00	音の祭典の練習
	23日	19:30~21:00	音の祭典の練習
	30日	19:30~21:00	音の祭典の練習
6月	6日	19:30~21:00	音の祭典の練習
	13日	19:30~21:00	音の祭典の練習

・合奏が始まるのは19:30からです。

遅れて参加する場合は、速やかに楽器を用意し、演奏が止まった時に静か合奏に参加してください。
廊下でのウォーミングアップは、合奏中の指示が聞こえなくなりますので、ご遠慮ください。

音の祭典について

今年の音の祭典（正式名称：第21回音の祭典 in YAWATA）は、11月10日を予定しています。6月の公募期間を経ての開催を予定しています。みなさん、スケジュールの調整をお願いします。

なお、指揮はフィルハーモニックウィンズ大阪 トロンボーン奏者 河毛博子先生の予定です。合奏の日程については、決まり次第案内します。

音の祭典について

今年の音の祭典の候補曲に上がっている楽曲3曲を、譜面が配布されている順番に紹介します。音楽用語については、ご自身で調べてください。

アパラチアン序曲

作曲：ジェイムズ・バーンズ

カナダからアメリカに渡る長大な山脈、アパラチア山脈。おそらく中学校の地理の授業でも登場しているかもしれませんが、筆者にはその記憶がなく……。その山脈の麓ノースカロライナにある学校のため1984年に書き下ろされた楽曲です。

華やかなファンファーレに始まり、ホルン、フューフォンウム、テナーサクスのメロディーに、他の楽器の打ち込みます。中間部は哀愁漂うトランペットのソロは、アパラチアン山脈の夕日をイメージさせます。

急緩急の構成、木管楽器のパッセージ、金管楽器の華やかさを始め、それぞれの楽器が織りなすサウンドがまさに「The吹奏楽」と感じさせられる楽曲です。

ロマネスク

作曲：ジェイムズ・スウェアリンジェン

1982年に発表された楽曲です。木管楽器が美しいメロディーを奏で、中低音がハーモニーを支え、金管楽器が華を添えるという構成が特徴のコラールです。

ロマネスクとは、10世紀から12世紀頃の西ヨーロッパあたりの建築様式をはじめ、彫刻・絵画・文学といった芸術美術建築の様式をいいます。曲想は「そのロマネスク様式をイメージして書いたのかな？」と思わされる曲想です。

K点を超えて

作曲：高橋伸哉

1999年の吹奏楽コンクールの課題曲。1998年の長野オリンピックのジャンプスキー日本代表の活躍を讃えて書いた曲。今でも演奏され続けている行進曲です。

K点とは、スキー・ジャンプ競技の用語で、着地の極限点を意味するドイツ語のKritsch Punktに由来しているとのこと。

筆者個人的には、トリオの木管楽器のメロディーの後、トランペットパートがさりげなくベルトーンを決めてからメロディーに重なってくるところが好きです。

<了>

5月の演奏会情報

八幡市民オーケストラ
第53回定期演奏会
2019年5月19日(日)
14:00開演
八幡文化センタ 大ホール

練習にあたり

昨年の祭典の後、河毛先生が挙げられていた課題です。普段の練習から意識して練習しましょう。

- ・身体の中にビートを常に刻んでおくこと。
- ・自分の楽器の都合で走ったり遅れたりしないようにすること。
- ・そのためにはどういう練習をすれば良いか考えること。

～～編集後記～～

元号も変わったということで、今月から紙面を少し変えてみました。

話題も、選曲に関する話題、楽典に関する話題、吹奏楽や音楽に関する書籍なんかも見つけたら紹介していきたいと思えます。

さて、しばらくの間、このスペースには、昨年の祭典の後、河毛先生からいただいたコメントにあった、これからの課題を列挙しておきたいと思えます。